

新春インタビュー

こらんしよ

おいでよ 福島へ

～障害者と震災とわたし～



全国大会in東北・ふくしま実行委員長
大和田 新さんに聞く

2013年を迎えました。今年のきょうされん全国大会は、福島県で行なわれます。原発問題で地元に戻れない方が多いという状況の中で、障害のある人たちも、生活を支えてくれていた方たちが郊外へ引っ越してしまうことも多く、生活を続けることだけでも多くの困難を抱えています。

混迷を極める社会情勢のなか、TOMO新年号では、全国大会in東北・ふくしまの実行委員長であり、ラジオ福島のアナウンサーでもある大和田新さんに、全国大会への意気込みをお話しいただきながら、福島で暮らす人々への思いや、これから大切にしたいことをお聞きしました。

全国大会 in 東北・ふくしま実行委員長大和田新さんに聞く

失明した友人と

大和田 神奈川県の横須賀出身のわたしが高校2年の時に、1年上の先輩で網膜剥離の友達がいました。野球部で、甲子園をめざして一生懸命やっていたんですけど、学校を中退したんです。ほとんど見えなくなってしまって。それでわたしは視覚障害の方とのつきあいは全然ありませんでした。彼の場合は、視野がすごく狭くなってしましました。新聞の字は読めるのに歩けない。障害を持つてい

る人っていういろいろなんだ…というのが分かったのです。

それから彼が中退し、しばらくしてからひょんなところで会ったんです。わたしは大学生でした。彼に、いま何しているのか尋ねたら、盲学校に入りなおして鍼灸師の資格をとるっていうんです。だけど、「中途失明なので、白杖はつきたくないし、点字なんか覚えたくない。だから、おまえ参考書や問題集を読んでくれないか」と言われたのです。それから彼が資格を取るためのいろいろな勉強のお手伝いをすることになったんで

障害のある人たちとの数々の出会い

一あけましておめでとうございました。今年もよろしくお願ひします。きょうされん全国大会の実行委員長の話があつた時に、何で俺なんだと思います。最初は記念講演かなにかのお願いかなと思つたら、実行委員長ということなんで、そ

れはちょっとどうしたものかと…。人に迷惑がかかつてしまうじゃないですか。それが心配だったのですが、わたしの今年最大のイベントだと思って一生懸命やらせていただきます。どうぞよろしくお願ひします。



《大和田氏プロフィール》

1955年3月28日生
ラジオ福島アナウンサー／第36回きょうされん全国大会 in 東北・ふくしま実行委員長

【現在の担当番組】

- ・かっとびワイド 新と美智子
の午後いちばん！
毎週木曜日13：00～15：00
- ・大和田新的ラヂオ長屋
毎週土曜日7：00～13：00
- ・福島競馬中継
- ・日曜ラジオエッセイ～心つないで
毎週日曜日11：30～12：00
- ・月曜Monday(もんだい) 夜はこれから！ 毎週月曜日19：00～21：00

す。視覚障害者のために何かやるというのではなくて、たまたま友人の目が見えなくなつたので、その人のために何かやつていたんです。

それがきっかけで横須賀市の朗読奉仕会で活動して、盲人の人たちと一緒に「声の図書」を作つたりしました。視覚障害者の方と仲間になると「図書室には、有名な本しかないけれど、おれたちは川上宗薰とか梶山季之なんかが聞きたいんだ」と言われます。ふたりとも、官能小説や風俗小説といったジャンルの有名作家です。そういった本は図書室にはないので、声のライブラリーなら」と頼まるわけです。わたしは「わかりました」と言って、読んだりしながら、視覚障害者の人たちに鍛えられました。

障害者差別を知つて

ちょうど昭和48・49年というの施設に入れられた女性の障害者が、子宮を摘出させられるという事件のあった時代でした。施設に入れられた人たちの状況がどう

なつてゐるのかと思いました。

そのころに「青い芝の会」(注)の活動や「母よ殺すな」という本などを読み、障害児が親に殺されるってどういうことなんだと考えることがありました。親というの

は子どもがどういう状態で生まれても、育てるのが親じゃないか。

それなのに障害児が生まれたといふことで殺してしまい、それが裁判の判決ではしようがなかつたという結果になる。障害児が生れた苦労を親が全部背負つていくのは大変だから」と、どちらかといふと、世の中が殺した親に対して理解を示す風潮がどこかにありました。

それに対して「青い芝」の人たちは、冗談じゃないよという運動があつたんです。

蛇名先生から学んだこと

目が見えなくなった友人と飲んだ時、一番つらかったのはなに?

と聞いたら、「自殺ができなかつたこと」だといつていきました。そ

うな注

青い芝の会・全国青い芝の会。脳性麻痺の方による障害者団体

して、見せてくれた彼の腕には傷がいっぱいあつた。切つているけど、見えないから本当の意味で死ねないんですよね。どこにガスの栓があるのかわからぬんですよね。

そういう状況のなかで、わたしは将来福祉関係の仕事をつきたいと思っていました。横浜にある施設へ就職したくて、大学3年生の時に館長の蛇名先生のところに就職をお願いにいったんです。

蛇名先生は全盲ですが「もし君が一生視覚障害者とつきあっていきたかったら、福祉の仕事に入つてはいけない」といわれました。なぜですかと聞くと「井の中の蛙大海を知らずで、学校の先生が教育が見えないように、政治家が政治が見えないように、親が子どもたちを見えないように、

覚障害者とつきあっていくならば、それを“なりわい”としてはいけない。そのなかにどっぷり入つてはいけない」といわれました。

蛇名先生からはいろいろなことを気づかせていただきました。昔横浜のガード下で、われわれ学生と蛇名先生で飲んでいたときに停電になりました。わたしたちが騒いでいたら、先生が「目明きというものは不自由なも



全国大会 in 東北・ふくしま実行委員長大和田新さんに聞く――



のですね」といつたんです。これはカルチャーショックでしたね。われわれどこかで障害を持つていいなくてよかったですとか、障害者はかわいそうだなとか、おれ目が見えて良かったなという気持ちがあつたのだと思います。しかし、停電で騒いだ時に、目明きというもの不自由なものはすねとおっしゃつた蛭名先生はすごいと思いました。

ともにラジオ放送しながら
福島県にきて、ラジオ放送も障害のある人といっしょにやつていました。わたしの1つ年下で、大橋雄二君という血友病の方がいます。2万人に一人の血友病で、今から35年前に左足を切断しているんです。その大橋雄二君とわたしは5年間深夜放送をやりました。面白かったです。番組に、車いすの方がラブホテ

二君のことを慕っていた、とっちゃんという難病の方も番組に出てもらいました。彼は番組をやりながら途中で足を切断する手術をしました。わたしは手術の前に会いにいきましたが、病室の前に行つたら笑い声が聞こえるんですよ。入っていたらひざに「へのへのもへじ」って書いてあるんですよ。それは雄二君の影響なんですよ。雄二君が足を切断するときの武士たる覚悟を述べたんですね、とっちゃんに。だからとっちゃんは、歯を一本抜くような感じでストレッチャーに乗せられて足を切つてきましたけれどね。そんな元気で逞しい大橋雄二君とっちゃんとです。

ルへの入館を拒否されたという投書が来たんです。

これはおかしいな。障害者だってセックスする権利があるんだから…ということで、番組で呼びかけたら来たんですよ。「うちは車いすでもOKですよ」って。おもしろいつながりでした。

番組が残してくれたもの
とっちゃんは番組内では何も喋らなかつたので、詩を書いてきたらというと、毎週詩を書くようになります。すばらしい詩で若者になりました。すばらしい詩で若者からものすごい人気が出て。

当時、アイドルタレントの自殺事件で後を追う若者が全国で60人くらい出ました。わたしの番組でも自殺を予告する手紙がいっぱい來たんです。われわれも絶対死んではいけないと呼びかけをしました。

そんなときに、とっちゃんがものすごくいい詩を書いてくれたのです。それが若者たちの心を打ったんですね。「人は自らの意志で生まれてきたのではなく、この世に誕生したいと願つたわけでもない。神の命するままにこの世に誕生してきた。だから、死ぬ時も自分の意思で死んではいけない」。というような詩でした。これがものすごく反響があつたんですよ。われわれが番組をやっている5年の間に、福島県中のいろんな障害の人たちが、われわれの番組

に参加してくれました。骨形成不全症の人もいれば、もちろん全盲のひともいれば、ベーチェット病の人もいれば、癌の人もいる。それから、登校拒否の子どももいました。

とつちゃんは亡くなられたのですが、そのことはラジオでも言いましたし、新聞でもテレビでも報道してくれ、告別式のときは寒い日でしたが200人以上の人人が集まりました。

自然に自分と同世代の人間が困っていたから、よしやろうと思つてやつたことが今につながつているので、あまり障害のある人のためにということは思ったことはなかつたですね。

人からのツイッターでしたね。これはすぐかっただです。

今あなたがいるところは、どういう状況ですか? あなたがいるところはありますか? ラジオで呼びかけてラジオ福島のツイッターに送ってくれと。

一日何千と来ていましたから。結局その情報が正しいかどうかについては、電話もつながらない状況の中はどうやって判断していくのか?:

来年がラジオ福島の開局60周年なんですね。その時われわれが出た結論は、われわれ60年間やつてきたことをふり返って、「この未曾有の震災があつて、みんな正しい情報を欲しがつているときに、嘘の情報を流してくる人がいるのだろうか。われわれはラジオを聞いてくれている人と60年の間に信頼でつながつてきた。それしかないとどう」そういう結論をつけました。

いのちを繋ぐ薬

わたしがやつていてまず考えたのが薬です。郡山のある奥さんから「重い心臓病の小学校2年生の娘の薬が2日で切れてしまう。病院も薬局もやっていない。ガソリン

もない。このままだと死んでしまう。特殊な病気なんだ。なんとかこの薬を処方してくれる病院、薬局ありませんか」という連絡がきました。それを放送で流したんですね。病院からも情報が来るんですけど、いま開けられる状況ではない。

すると、その薬と同じ薬をもつてお客さんがおつしやつていました。水道管全部が破裂しているので部屋の中は滝の状態です。

われわれもホテルからラジオ福島のスタジオに戻り、わたしは夕方6時から次の朝の6時まで12時間しゃべりっぱなしでした。でも1分で揺れはおさまります」というのが放送局のマニュアルなんですよ。ところが3月11日は2分25秒揺れていたんですね。本震2分

大和田 3月11日は仕事で歌謡ショーの司会をやつしていました。ホテルの地下3階でしたが天井が動きました。シャンデリアが天井にぶつかってバーンバーンと落ちてくるんですね。

東日本大震災と障害者

雪が降つていたので寒い寒いつてお客様がおつしやつていました。水道管全部が破裂しているので部屋の中は滝の状態です。

われわれもホテルからラジオ福島のスタジオに戻り、わたしは夕方6時から次の朝の6時まで12時間しゃべりっぱなしでした。でも1分で揺れはおさまります」というのが放送局のマニュアルなんですよ。ところが3月11日は2分25秒揺れていたんですね。本震2分

全国大会 in 東北・ふくしま実行委員長大和田新さんに聞く――



れわれ医者でも
薬剤師でもない、
その薬が本当に
その薬なのかど
うかということ
もありますよね。
かたや小学校2
年生の女の子、
かたやあげても
いいですよとい
うのが大人です
からね。その薬
が本当に彼女に
与えて副作用で
死んだりしない
だろうか。あと
は、僕が持つて
いきますといつ
た人が、持つて
行つたときに
「はい、交通費
10万」と言わな
いかどうか等々、
いろんなことを
みんな考えまし
たが、それも、
「この未曾有の
災害のときにそん

なことする人は、われわれの放送
を聞いている人の中にはいない」
そういう判断に立つた時、動きは
早かつたですよ。現場で判断でき
ましたから。いちいちこれどうし
ますかなんて、社長にお伺い立て
ないで。命にかかるものはどん
どんやれ、最終的な責任は社長が
とつてくれるといったくれました
から。

わたしは「ふざけるな。部長出
せ！」と言ってね、「お前のとこ
ろの市民だぞ!!」とやるんですが、
「これはダメです。これは飲み水
ですか。決まってますから」の
一点張り。「なに決めてんだ！」
てことなんですけれども…。

行政の責任

次は透析です。透析患者さんか
ら透析しないと死んでしまう。市
役所に電話して、われわれ震災の
次の日から2時間から3時間並ん
で、水をもらいにいったんですか
ら。給水車に2時間並ぶんですよ。
雪が降っているのに。その時にど
れだけの放射線が降っていたか。
そういう状況のなかで、透析患者
さんからとにかく命を救つてくれ、
透析しないと死んじゃうという声…。
ところが電気もつかない、水もな
い状況のなかで、聞いてみたら、
透析は大量の水が必要なんですね。
機械を洗うのに。

行政に連絡をして、「明日市民

のために配る水をこの病院に持つ
て行ってくれないか。今お宅の市
の市民の方からこういう依頼が来
ているんだ。なんとかしないと死ん
でしまいます」と話をました。
そのとき行政の人があっしゃっ
たのは、「これは飲み水です。飲
み水を透析の機械を洗う水にもつ
ていけない」とのことでした。

この震災から学ぶこと

そうやって、薬の問題、透析の問題を乗り切ってきました。これはわれわれラジオの使命かなと思います。

やっぱり、震災当初は本当に連絡なんかつかなかつたですから。行政が来てくれたのは2週間くらいいあとですね。障害のある人に聞いてみると、「早くて」2週間だったようです。

行政の方にはもつと早く弱者の人たちに声をかけてほしい。障害のある人は、避難所にいけないんですよ。トイレの問題などもありますし、最初にいった避難所なんか、みんな体育館座り、70歳の方でも80歳の方でも90歳でも、「体育館座り」をさせられていきました。死んでしまいますよね。

障害のある人たちが逃げるための避難所なども今から確保しないとだめですよ。「○○に避難所をつくりました」って言つても、高齢者や車いすの人、目の見えない人には外からはわからないのですから。

人工肛門を付けている方なども話を聞くと、食べず飲まずに過ごしていました。トイレに行けないから。外からわからないですよ、人工肛門を付けている人のことは。やはり障害のある人たち用に人工肛門などの処理もできる場所をつくっておくべきです。

福島や宮城・岩手から学ばないと。東日本大震災って過去のものになっていますが、そうじゃないんですよ。いまも苦しんでいる人がいっぱいいるし、これからも起き

る可能性があるわけです。

福島の今は

今でも福島市内では、20マイクロ30マイクロ、60マイクロシーベルトのところがあります。それはホットスポットといわれるところです。

綿菓子と同じで、放射線の濃い塊がそのまま風に流れてきて、雨が降つたらそのまま落ちてくるわけですから、そこは高いわけです。だから東京だってホットスポット

（WBC）を入れ、6000人の幼稚園児と小学生の内部被ばくを測りました。その結果99・9%は問題ないということでした。今でもホールボディカウンター（WBC）：内部被ばく線量を調べるために、人間の体内に摂取され沈着した放射性物質の量を体外から測定する装置

その0・1%の6人のうち3人は兄弟で、おじいちゃんおばあちゃんの家庭菜園を食べていました。今でも福島県で、家庭菜園は食べてはいけません。食べるなら測った方がいい。

だから、通常流通しているものを食べていれば福島県で生活していくてもまったく問題がないのです。いま懸命に除染をやっていますが、上から3センチぐらいの表土を剥ぎ、剥いだ放射線のついた土

は当然あると思います。



—全国大会 in 東北・ふくしま実行委員長大和田新さんに聞く—

大和田 暗い面だけではなく、福島の現状を伝え、がんばっていることを伝えながら、多くの方に来てほしいです。

だれも防護服をきて歩いてはいませんし、マスクして歩いている人はかぜか花粉症と思つていただけで結構です。

われわれも楽しみにしています。大会に向けて一言お願ひします。

福島県の農家の人たちは命がけでコメを作つたり野菜を作つたりしています。磐梯熱海温泉は非常に歴史のある素晴らしいところです。他にも元気な福島を全国に発信できればと思っています。

原発が廃炉になるまでは40年、その気の遠くなるような歳月の先にある福島県の復旧、復興を担うのは、福島県の若者たちですからこのきょううされんの全国大会が福

きょうされん第36回 全国大会に向けて

は、自分のうちに置くだけ。何の意味があるのでしようか。

なぜそういうことになるかといふと、最終処分場が決まらない、行政中間貯蔵施設がきまらない、行政の中にある仮置き場が決まらない仮置き場に持っていくための仮仮置き場が決まらない、すべて何にも決まっていない状況の中で、末端の除染だけ始めているからです。しかし今は、もっと子どもたち

のために、教育や医療のためにお金を使うべきです。たとえば子どもたちに甲状腺がんのエコー検査をやっています。今の福島の子どもたちが、10年後20年後甲状腺がんになった場合、国が100%治療費を負担すべきです。それを法律化しなくてはダメです。国や県は、子どもたちを命がけで守らなくてはいけません。そうしないと福島県は本当に取り残されてしまします

島で行なわれて、全国から障害のある人たちが来るという姿を、福島の若者たちにも見てもらい、一緒になってつくつていけるといなと思っています。



きょうされん第36回全国大会 in 東北・ふくしま

■とき 2013年9月21日(土)・22日(日)

■場所 福島県郡山市磐梯熱海温泉 ユラックス熱海他

■大会テーマ ここから「つたえ つなぎ はじめる」